

番組審議会

第690回

2025年2月17日

■ 審議会の構成

出席委員数 9名

委員長 音 好 宏

副委員長 江 澤 佐知子

委 員 尾 縣 貢 喜田村 洋 一
田 中 東 子 洞 口 依 子
長 嶋 有 水無田 気 流
目加田 説 子

(萱野稔人委員、欠席)

TBSテレビ 龍 宝 社 長
合 田 専 務
井 上 取締役
三 城 コンテンツ戦略局長
平 田 コンテンツ制作局長
渡 辺 ドラマ制作部長
土 井 「スロウトレイン」演出
藤 田 編成考査局長
浜 崎 カスタマーサクセス室長
満 田 番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

(1) 新春スペシャルドラマ「スロウトレイン」

1月2日(木) 21:00~23:15放送

(2) その他

2. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声

(2) 次回審議会の議題及び日程

【審議番組について】(新春スペシャルドラマ「スロウトレイン」)

江ノ電が走る鎌倉で暮らす、独身の姉・葉子、韓国・釜山へ引っ越すと言い出した妹・都子、恋人がいることを隠している弟・潮。交通事故で両親と祖母を一度に亡くし、三人きりでやってきた三姉弟が、それぞれの岐路に立つ。家族とは、伴侶とは、自分の人生とは何なのか。なぜ人は「寂しさ」を抱いてしまうのか。

主演は松たか子さん、共演に多部未華子さん、松坂桃李さん、星野源さん、チュ・ジョンヒョクさんと豪華キャストが顔を揃えた今作。

脚本は野木亜紀子さん、演出は土井裕泰。野木さんとドラマ「空飛ぶ広報室」「逃げるは恥だが役に立つ」「重版出来！」映画「罪の声」でタッグを組んできた土井が、今回初の野木オリジナル脚本で演出を手がけた。

変わりゆく時代の中でも普遍的に在り続ける「家族」を描いた、新年の幕開けにふさわしい新時代のホームドラマとなった。

【委員の主な意見】

- お正月に見るスピード感、テンポ感で作られていて、小説を読んだような味わいがあった。自分自身の課題や問題を、家族を口実に避けている人はかなりいるという意味で普遍性の高いテーマのドラマだった。
- 連続ドラマの企画としては通らないかもしれない、刺激的な出来事が起こらない穏やかな作品。きょうだいの機微をすくい取っていて意義深い。3人の役者が主役級で揃っていて存分に演技を味わうことができた。
- 各駅停車のごとく、あるいは江ノ電のごとく、一つ一つ次の駅を目指していくような、そんな人生を歩んできたいと思った視聴者は多かったと思う。
- 『である』ことと『する』ことを思い出した。きょうだい「である」とい

う静的な状態ではなく、きょうだいを選択「する」という瞬間が入ってきた中で、3人がどう生きていくのかを描き出したドラマではないかと思った。

- 江ノ電の保線をしている長男と、東京と行き来している長女・韓国に行ってしまう次女の対比。女性の方が移動しているというところが時代的でリアルだと思った。
- 「お嫁に行けば」などあれこれ言うてくる親戚や、墓守娘になっているであろう長女の悲哀が描かれていない。ダークサイドな部分も欲しかった。
- 2時間の中で演出できる部分には物足りなさが残った。3きょうだいが均等に描かれていて感情移入がしにくく、全体としてきれいにまとまり過ぎていた。もう少し泥臭さがあった方が見ている側は安心できる。
- 女性が独身であることへの感情を総じて「寂しさ」と表現していたが、実際の50代女性は体の変化に対する漠然とした不安を抱えている。ふと白髪を見つけるなど年齢を意識した場面があれば多くの女性の共感を呼んだのでは。
- 舞台が鎌倉である必要はあったのか。家族という集団の恐ろしさと孤独を描くことに長けていた小津安二郎や向田邦子の何かを汲みたいと思うなら、徹底して家族にフォーカスを合わせる事が大事だったのでは。
- かつてTBSが正月にやっていた、向田邦子さんの単発家族ドラマは厳しいストーリーが多かった。独身女性。国際結婚、性別を超えたパートナーなど、生きづらさがもっと出た方が、作り手の思いも出たのではないか。
- こういう形のドラマを単発で放送することに意味がある。動画配信やグローバル展開がある中、ドラマの編成はこれまでと違った形での展開の可能性を研究する時期に来ているのかもしれない。

【局からの回答】

- 舞台がなぜ鎌倉、釜山なのかという点。小津安二郎さんが60歳で亡くなって60年、60歳になる演出家と同じ鎌倉という舞台で野木さんとやってみようというところから始まった。

- 2002年、日韓ドラマ「friends」を韓国と共同制作したが、それから20年の間に起きた意識の変化を体感し描いてみたかった。調べたら江ノ電に似た電車が釜山に走っていることがわかった。場所ありきというよりはある種の必然、人間の意味があり、そういう設定を野木さんが考えてくれた。

- もうちょっと深みがあってもというのほどこかで思っていたことでもある。ご指摘いただいた点は、単発2時間の中では思ってもなかなか描けず至らなかったというのが現状。自分なりにもう一度見直してこれからの演出やドラマ・映画作りに活かしていければと思う。